

子曰く、君子は周して比せず。小人は比して周せず。

徳は孤ならず。必ず鄰有り。

君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。

【大体の意味内容】先生はおっしゃった。「君子はすべての人々に周く真心を尽くすが、決して

甘つたれてじゃれあうような関係にはならない。小人は甘えの通じる相手にばかりじゃれ

あうが、様々なタイプの人に真心を尽くしたりはしない。仁徳のあるものは、人に尽くすば

かりで一見、本人は「ぼっち」に見える。しかし本当に孤立しているわけではなく、多くのも

のが心の中では慕っているので、隣にいる人々は、実は無限に大勢いるのだ。君子は様々

な異なったタイプをすべて尊重し、生かし、それらを調和して大きな力を発揮できるように

する。決して支配するのに都合の良いワンパターンなタイプになるよう、強制したりはしな

い。小人は支配するのに都合がよいよう、みな同じタイプになるよう強制しようとして、そ

れぞれ異なった個性を存分に発揮してもらおうなどとは考えない。」

大きな組織はもちろん、どんな小さな組織でも、リーダーになるのは楽なことではありません。様々な個性が集まって、その人たちをまとめ上げてゆくには、やはりみんなが同じ枠に収まってくれて、自分の言いなりになってくれた方が楽に違いありません。でもそれでは、組織としてはまとまりやすいかもしれません、ほんとうに大きな力を発揮することはできません。それぞれの個性を調和した形で一丸となればこそ、予想や期待をはるかに超えた大きな力が生まれてくるのです。ただ、そのためにはリーダーは大変な苦勞を強いられることにもなるし、そのくせ誰からも褒めてもらえなかったり、自分は活躍できなかったりする場合があります。そうした、ふつうは人々が嫌がる、つらい、損な場面を、真つ先に微笑みを持って担当する人、それが本当のリーダーであり、君子なのでしょう。